



冬至の風物詩

今年の冬至は12月21日。一年でいちばん昼が短く、太陽の力が最も弱まる日なので、厄を払うために体を温めて無病息災を願う風習があります。京都では昔から冬の始まりに食べ物で縁起をかつぎ、気を養ってきました。また冬至のことを「一陽来復」ともいいますが、良い春を迎えられるようしっかり厄払いをしたいものです。

かぼちゃ供養

矢田寺(寺町通)

寺町通にある矢田寺のかぼちゃ供養は中風除けと諸病退散にご利益があるとされています。



寂光院(大原)

大原の寂光院でもかぼちゃ供養があります。



大根焚き

千本釈迦堂(上京区)



通称「千本釈迦堂」の大報恩寺では冬の初めに大根焚きが行われます。千本釈迦堂は大根焚きの発祥の地と言われ、古くから諸病除けに良いと信じられています。

了徳寺(鳴滝)

了徳寺の大根焚きでは3千本の大根が用意され、多くの参拝者が訪れます。



ゆずゆ 柚子湯

水尾の里(右京区)

右京区の水尾は国内のゆず栽培発祥地とされています。柚子湯は、天皇や貴族の間で邪気を払う冬の入浴法として行われ、冬至の行事になりました。

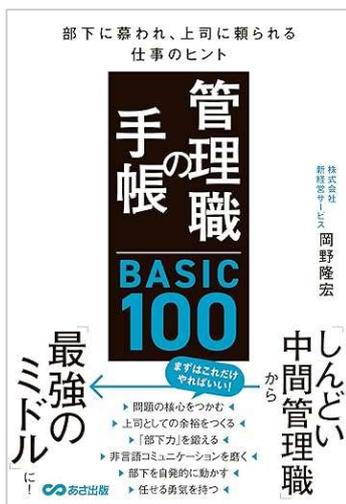


冬の七種

冬至に食べると縁起が良いとされるのが「冬の七種」。「ん」が2つ付いていて、たくさんの運が呼び込めるそうです。

- 「南京 なんきん(かぼちゃ)」
- 「蓮根 れんこん」
- 「人参 にんじん」
- 「银杏 ぎんなん」
- 「金柑 きんかん」
- 「寒天 かんてん」
- 「饅頭 うんどん(うどん)」





■出版社:あさ出版
■定 価: 1,760円(税込)

部下に慕われ、上司に頼られる仕事のヒント

管理職の手帳 BASIC100

しんどい中間管理職 から 最強のミドル に

成長させるべきは自分自身である

上司と部下との
板挟みで孤立感を
抱いている…

そもそも、
マネジメントって
どうやって学べば
いいのだろう…

自分だけ
努力しているのに
理解されない…

はじめての管理職が抱えるこんなお悩み、一冊で解決できます

はじめて管理職になった人や、中間管理職の業務に悩みを抱える人に向けて、管理職が日々直面しているさまざまな問題を掲げ、その解決法を現実論と原則論の両面から解説していきます。

「マネジメントを学んだことがなく自分のやり方が合っているのか不安」「自分の思考・言動に偏りがあると感じている」「結果的に自分の価値観を押しつけることしかしていなかった」…など、管理職の壁に直面している方々の声に耳を傾けてきた人材開発コンサルタントが「少なくともこれだけは知ってもらって損はない」という仕事術を厳選して紹介します。

ひとつの問題に対する解説は見開き2ページで完結する形をとり、各項目には3行程度のまとめが入るので、一度読んだあとに3行の要約を読み返して内容を再確認することができます。



著者 岡野 隆宏
株式会社新経営サービス
人材開発部シニアコンサルタント

【本書の構成】

- 第1章 リーダーとしての役割
- 第2章 上司の補佐役としての役割
- 第3章 組織の相乗効果を高める役割
- 第4章 人を動かすコミュニケーションの技術
- 第5章 これだけは必要な管理職のマネジメント力
- 第6章 知っておくべき問題発見と解決の技法
- 第7章 信頼される部下育成の極意
- 第8章 他社に差をつける自己成長のポイント

<あとがき>

早いもので今年も残り少なくなってきました。この夏は猛暑が長引き、秋が短くなってしまったような気もします。慌ただしい時期となりますが、時には紅葉を探しに外に出てみたり、秋の味覚を楽しんだりして、積極的に季節を感じたいものです。(木下)